

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2908

科目概要記入欄

| | | | | | | |
|--------------------|---|--------|-------------------|-----------|--------|--------|
| 1. 開設大学名 | 島根県立大学 | | 科目開講 キャンパス | 浜田キャンパス | | |
| 2. 科目名 | 正式科目名 | 環境保全論 | | | クラス名 | |
| | 副題 | | | | 配当年次 | 1、2年 |
| | 旧科目名 | | | | | |
| | 学問分野 | 番号 | 43 | 名称 | | |
| | サテライトで開講される科目の科目群 | | | A群 | B群 | |
| 3. 担当教員名 | 北尾 邦伸 | | | | | |
| 4. 単位数 | 2単位 | | 5. 開講学期 | 秋学期（集中講義） | | |
| 6. 開講期間 曜日・時間 | 2020年 2月 17日（月）～2019年 2月 20日（木） 月～木曜日 9:00～18:00 | | | | | |
| 個別開講日 | 1回目 / | 2回目 / | 3回目 / | 4回目 / | 5回目 / | 6回目 / |
| | 7回目 / | 8回目 / | 9回目 / | 10回目 / | 11回目 / | 12回目 / |
| | 13回目 / | 14回目 / | 15回目 / | 16回目 / | 試験日 | / |
| 7. 基礎知識の有無 | 1. 「基礎知識を必要とする科目」（ ） 2. 「基礎知識を必要としない科目」 | | | | | |
| 8. 募集人数 （総授業定員） | 5人 （人） | | 9. 定員超過時の 選考方法 | 書類選考 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---|---|
| 10. 科目内容・授業計画 | <p>環境保全を論ずるに当たってのキーワードは、「循環」と「共生」と「持続可能性」。そして、人間と自然との関係の在り方が重要テーマ。本講義ではテーマに沿って必要な宇宙・太陽系・地球・生命の形成と進化や、種の多様性・系統分類学などの最新の科学的知見を随所で紹介していく。また、環境問題は地球規模の問題であるとともに、身体的・生活的な「環世界」での「存在の豊かさ」を追求する問題でもある。主体・システム・境界・ユニットの設定の仕方によって外部「環境」が明示的となり、システム応答やコミュニケーション的相互了解の仕方が表われてくるが、このことで、自然と人間社会の「間」に介入させている科学技術や産業の在り方を自省的に問題視できることになる。定常開放系の共生・循環型社会の構築を旨とせねばならないし、また、生活世界での豊かな風景・景観のデザインも求められている。地域主義・生活環境主義の環境社会学の立場から、「風土の日本」や島根県での事例も多数取り上げたい。</p> <p>【到達目標】 環境問題の所在（現状の事態と事実）の基礎的知識を習得し理解できる。文化生態系、自然と文化の通態性・重ね方・編集に関する基本的概念を自己の言葉で説明できる。</p> <p>第1回 講義の全体像および基本的タームの導入的理解：環境・environment・Umwelt・milieu(取り巻く世界、間・境界、環境内存在)、natureと「自然（おのずからとみずから）、自然自身のregenerationとresilienceおよび動的平衡。そして、いくら科学技術が進歩しても地球システムは造れない、生命・生態系は造れない。したがって、「保存」と「保全」が、いまや人類生存のための重要課題となってきた。</p> <p>第2～3回 原生的自然の保存 pre-servation：原生林の消失・破壊の進行と対処（自然保護地域の設定、ユネスコMAB計画、種の保存法、エコシステムマネジメント）</p> <p>第4～5回 里山的自然の保全 con-servation：人の干渉を待ち受けている自然、自然の回復を待つ時間・リズム・循環の里、野生と人為、景観としてのノラ・ムラ・ヤマ</p> <p>第6～7回 環境保全の思想と条約・法・制度：自然の権利、ディープエコロジー、土地倫理・世代間倫理、生命地域主義、生物多様性条約やラムサール条約、環境基本法</p> <p>第8～9回 持続可能な社会へ：地球温暖化問題、枯渇資源依存とゴミ拡大の非循環型社会の問題性、原子核破壊発電の問題性、自然エネルギーシフトする北欧とドイツ</p> <p>第10～11回 文化生態系と流域思考：エコソフィア、生態系サービス、河川の再自然化（封水の防災から避水・遊水も入れた減災へ、川にもっと自由を）、流域社会の形成</p> <p>第12～13回 風景・景観論：環境デザイン、自然の引きよせ方や間合いのとり方（作庭での借景・遣り水・見立て）、文化としての自然、生きられる景観、「地」・基層と「図」</p> <p>第14～15回 コモンズ：市民社会論としてのコモンズ論、社会的共通資本論・自然資本、太陽と緑の経済（脱「科」学、脱市場社会化、脱グローバル病）、農林漁業の復権</p> | | |
| 11. 試験・評価方法 | 出席状態 40%、数回の中間ミニレポート 30%、最終総括レポート 30% | | |
| 12. 別途負担費用 | | | |
| 13. その他特記事項 | わたしは5年間、学生を引率して倉本聰が主宰する「富良野自然塾」に出かけていた。どこか現地に身を配置し、感性と想像力を豊かにして環境保全を学んでもらいたい。 | | |
| 14. サテライト科目の社会人受講について | 科目等履修生（単位付与）として受け入れ | 可 | 否 |
| | 聴講生（単位認定不要）として受け入れ | 可 | 否 |